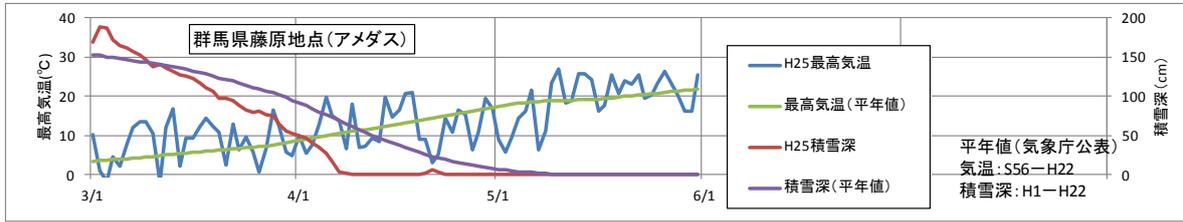


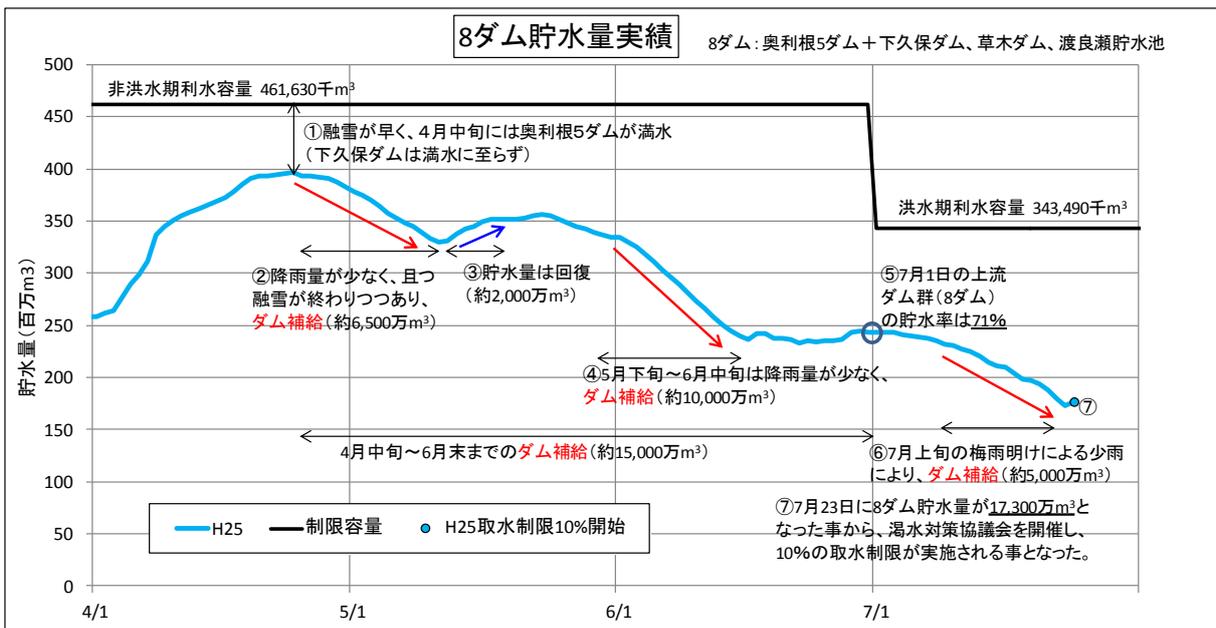
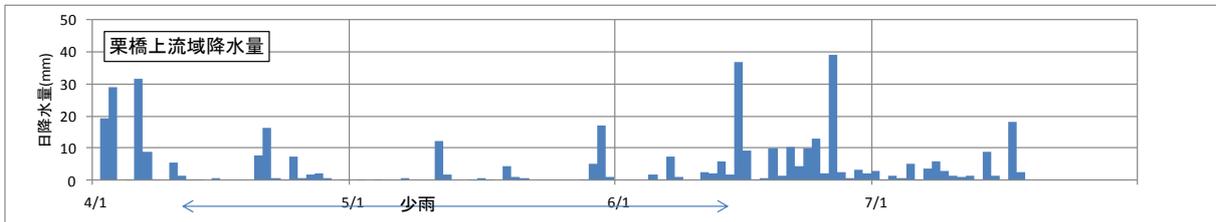
平成25年利根川水系の渇水状況とハッ場ダムの効果について

1. 平成25年利根川水系の渇水の特徴

- 平成25年は例年に比べて3月から4月にかけて気温が高かったため、融雪が早く、4月上旬には融雪が終わりつつあった。例年は、5月まで融雪が期待できる。

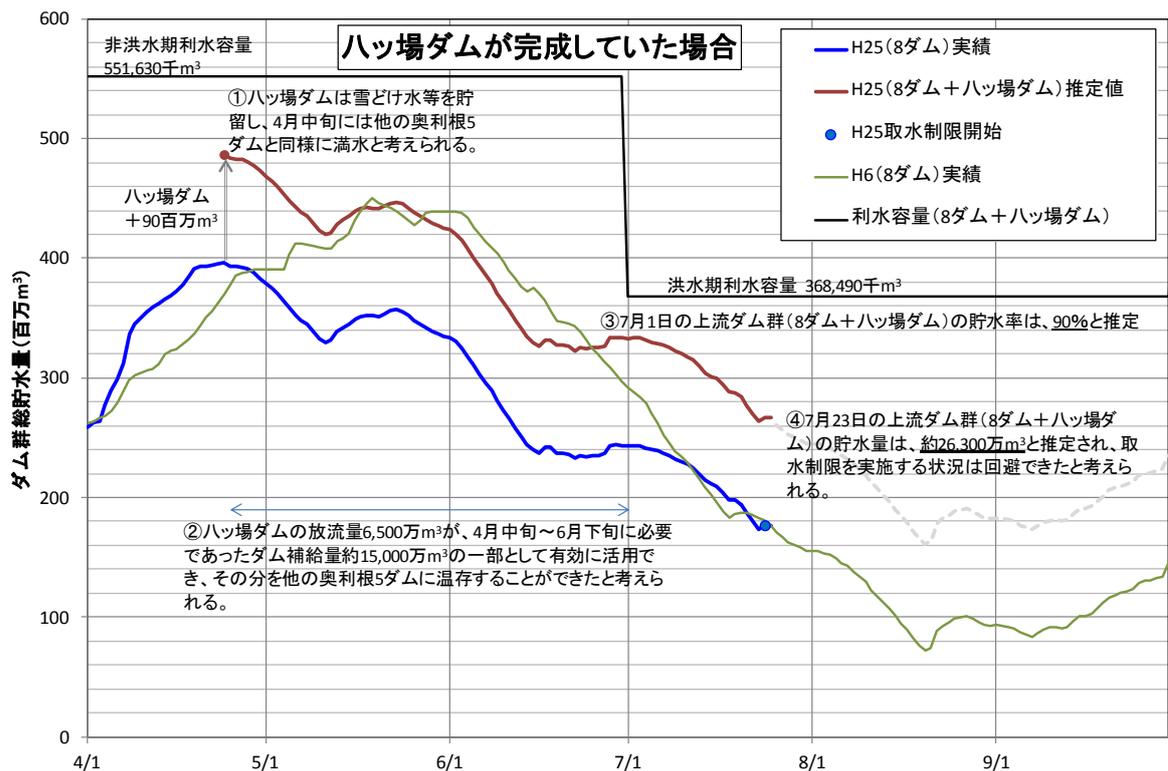


- 4月中旬には奥利根5ダム(矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、菌原ダム)が満水となったが、4月中旬～5月中旬の降水量が少なく、河川流量が減少したため利根川下流域の代掻き・田植え等の水需要増大に対応するため、ダムからの補給が必要となった。
 - 5月下旬～6月中旬も降水量が少なく、再びダムからの補給が必要となり、7月1日には貯水率71%に至った。4月中旬～6月下旬にダムから約15,000万m³の補給を実施した。
 - その後も梅雨明けが早く降水量が少なく、7月に入ってもダムからの補給が必要となり、7月23日には貯水量が17,300万m³まで低下し、10%の取水制限を実施するに至った。
- ※ ダムからの補給：河川の流量が少なくなると、水利用などの安定のため、不足する流量分をダム貯水量から放流し、必要な河川流量を確保すること



2. ハッ場ダムが完成していた場合の効果

- ① ハッ場ダムは雪どけ水を貯留することが期待できるため、ハッ場ダムが完成していれば、4月中旬には他の奥利根5ダム（矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、菌原ダム）と同様に満水になっていたと考えられる。
- ② ハッ場ダムは、7月1日までに6,500万 m^3 を放流し、洪水期制限水位（夏期制限水位）まで低下させることとなっているが、このハッ場ダムからの放流量6,500万 m^3 分が、今年の4月中旬～6月下旬に必要であったダムからの補給量約15,000万 m^3 の一部として有効に活用でき、その分を他の奥利根5ダムに温存することができたと考えられる。
- ③ さらに、ハッ場ダムには洪水期利水容量2,500万 m^3 が確保できていることから、7月1日の利根川上流ダム群（8ダム+ハッ場ダム）の貯水量は実績24,300万 m^3 に比べ9,000万 m^3 （他の奥利根5ダムの温存量+ハッ場ダムの洪水期利水容量）増え、貯水量約33,300万 m^3 （貯水率90%）と推定される。
- ④ その結果、7月23日時点の利根川上流ダム群（8ダム+ハッ場ダム）の貯水量は、実績17,300万 m^3 にハッ場ダムの効果9,000万 m^3 を加えた約26,300万 m^3 と推定され、取水制限を実施する状況は回避できたと考えられる。



【参考資料】

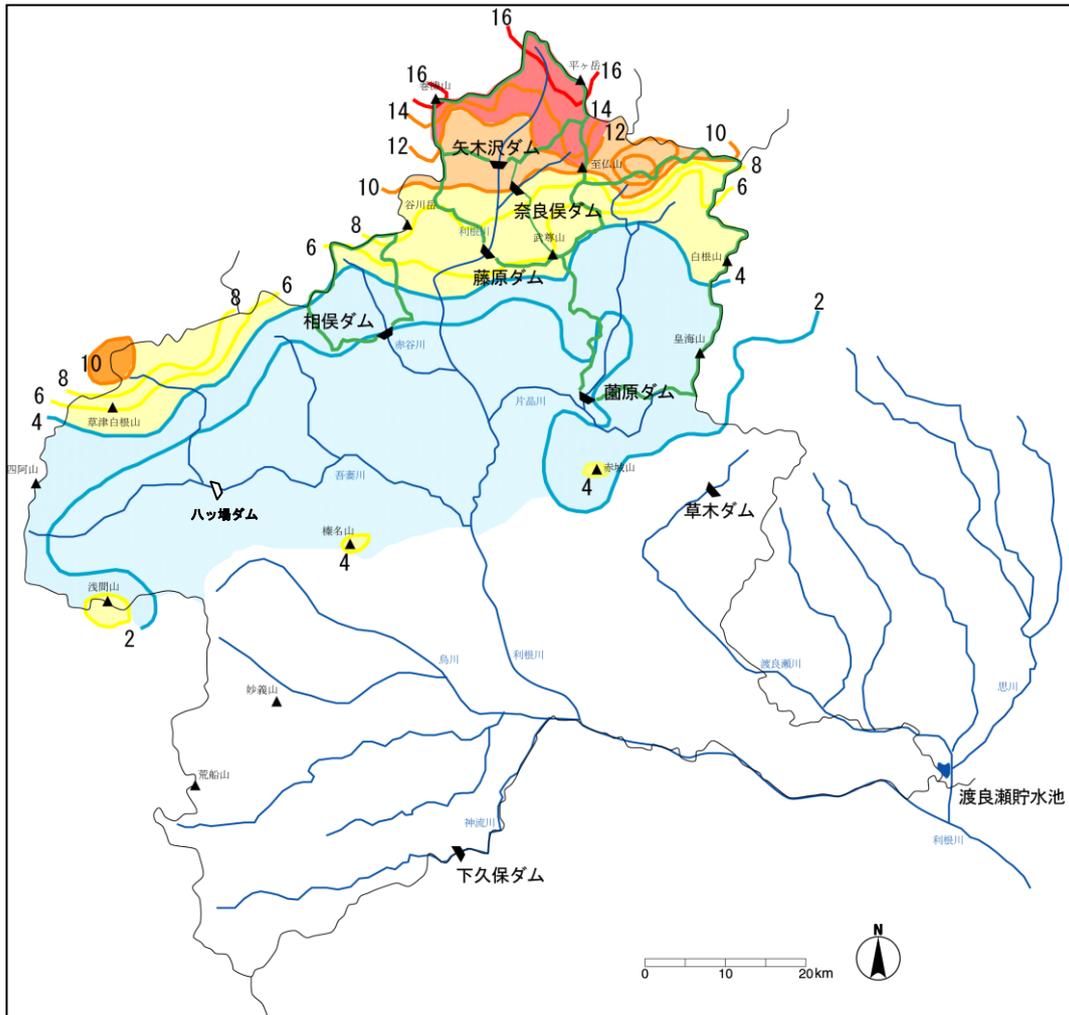


図 利根川上流域の累加積雪深分布（昭和30年～平成14年の平均値）
（平成21年度矢木沢ダム定期報告書にハッ場ダム追記）

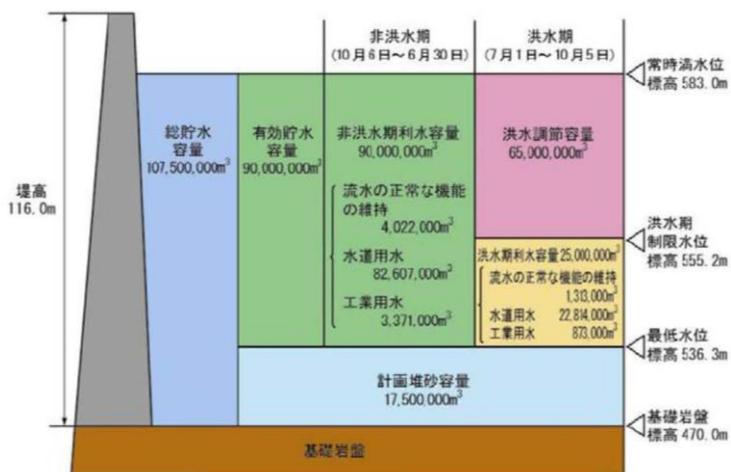


図 ハッ場ダム容量配分

（出典：ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書）

（国土政策研究所研究員 唐澤仁士）